

愛護センターだより

発行: 敦賀市少年愛護センター

住所: 敦賀市東洋町1番1号

電話: 0770-23-0189 Fax: 0770-23-0523

『青少年健全育成都市宣言』 都市: 敦賀市

やっぱり紙？

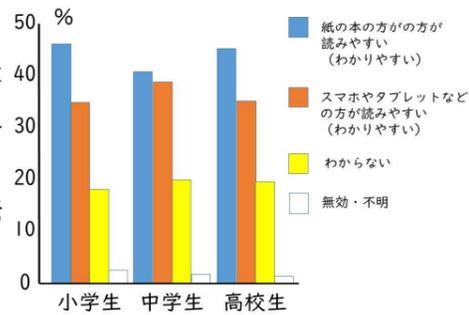
かさばらず検索性も高いなど利点も多く、スマートフォンやタブレットなどで電子書籍やニュースを読む人が増えています。公益財団法人全国出版協会・出版科学研究所の調べでは、2021年の出版市場では、紙の販売金額が前年比1.3%減に対して、電子出版の販売金額は前年比18.6%増（占有率は27.8%）。こういう数字を見ると、出版界のデジタル化が急成長していることがうかがえます。学校で使う教科書もデジタル化を進めていますから、紙の本は劣勢。

そんな中、全国学校図書館協議会が昨年6月に調査したところ、全国161校の小4～高3までの計14,091人の回答から「電子書籍の読書経験がある小中高生は紙の本の方が読みやすいと感じる傾向にある」と発表しました。

また、東京大学の酒井邦嘉 教授（言語脳科学）は「物語や小説など、しっかりと内容を追う必要がある読書には、紙の本が適している」「紙の本の場合、購入したり読んだりした際のエピソードも脳に刻まれるので、読んだ内容も記憶から取り出しやすくなる」「脳は常にアンテナを張っている。紙の本は、表紙や版型、装丁など五感に訴える情報が多いため記憶に残りやすい。小説や教科書のページを戻りながら読んだ体験も記憶を掘り起こす材料になるが、電子書籍のスクロールでは再現が難しい。特徴の少ない電子書籍では、『なんとなく読んだ』という程度にとどまり、読んだかどうかすら思い出せなくなることもある」と話しています。紙の本は五感を使って読むことになり、記憶に残りやすいようです。

2024年から小学校で本格導入が計画されているデジタル教科書。そのメリットとして「拡大表示が簡単にできる」「動画や音声の再生」「書き込みや保存ができる」「教科書上でカードを動かすなど試行錯誤がしやすい」「学習ログを残して生徒別の学力分析などに利用できる」等が挙げられています。一方、デメリットとして「端末の画面に集中しすぎてしまう」「目が疲れる、視力低下の誘因にならないかといった不安」「セキュリティ管理等の問題」「壊れた場合の対応」「お金がかかる」等が指摘されています。こうしたメリット・デメリットを十分把握した上で、子ども達の成長によりよい使い方をしなければならないということですね。

紙の本と電子端末のどちらが読みやすいか



子どもはほしくない？

厚生労働省は人口動態統計により2022年の日本の出生数が80万人を割り77万9728人、合計特殊出生率は1.26とともに過去最低を記録したことを6月2日に発表しました。2017年に国立社会保障・人口問題研究所が「80万人を割り込むのは2030年」と推計を公表しており、それよりもかなり速く少子化が進んでいるということになります。

ダイバーシティ…多様性が叫ばれる今日、その人らしい様々な生き方が認められなければならないわけですが、少子化問題をこのままにしておくわけにはいきません。少子化により、社会生活が維持できなくなる可能性があるからです。

さて、少子化の要因については、いろいろと考えられているようですが、2023年2月にBIGLOBEが「子育てに関するZ世代の意識調査」を実施し、調査結果を発表しました。

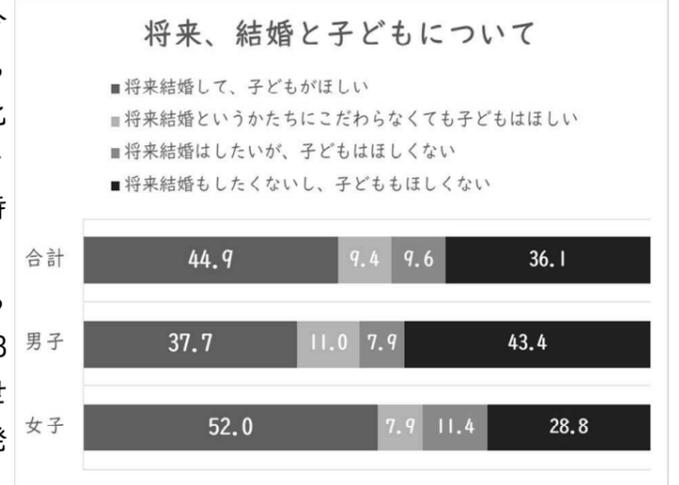
全国の18～25歳までの未婚で子どもがいないZ世代の男女457人に、「将来、結婚と子どもについて」質問をした結果が上のグラフです。結婚の有無にかかわらず「子どもはほしくない」との回答は全体で45.7%。男性は51.3%と半数以上で、「将来結婚もしたくないし、子どももほしくない」（43.4%）と回答した割合が最も多いという結果でした。

また、「将来、子どもがほしくない」と回答した18～25歳までのZ世代の男女209人に、「子どもがほしいと思わない理由」を質問したところ、「お金の問題」（17.7%）、「お金の問題以外」（42.1%）、「両方」（40.2%）という結果。

さらに「お金の問題以外で子どもがほしいと思わない理由」は、「育てる自信がないから」「子どもが好きではない、子どもが苦手だから」「自由がなくなるから」が上位となったということでした。

政府は「異次元の少子化対策」を考え、実施しようとしています。しかし、未婚の若者の意識は…。

子ども達が「結婚」や「子ども」について考えるときに、テレビ・SNS・雑誌からの情報が大きく影響することは考えられます。いろいろな情報の中で、しっかりと考え、自分らしい生き方を選択していけばよいことです。ただ、いろいろな情報の中には、プラス面も必要でしょう。まずは、家庭で、子ども達が「家にいると気持ちがやすらぐ」「家族と一緒にいると幸せ」…と感じさせたいものです。笑顔が溢れる家庭の中で、人生を考える場所づくり…ということでしょうか。



理由	割合 (%)
育てる自信がないから	52.3
子どもが好きではない、子どもが苦手だから	45.9
自由がなくなるから	36.0
日本の将来に期待できないから	25.0
子どもを育てにくい世の中だから	20.9
仕事と育児の両立が大変そうだから	18.0
健康上の理由から	16.9
子どもを持たないという選択も増えているから	14.0
子育てでもめている夫婦を見るから	12.8
パートナーとの協力が難しいから	11.0
離婚するかも知れないから	8.7
戦争・環境問題・災害など未来が心配だから	7.6
その他	5.2

